



No. 115 2014. 7

(株) よかネット

もくじ

NETWORK

用途変更による既存施設の利活用について ー第3回公共施設マネジメント研究会活動報告ー	2
平成26年度福岡県自主防災組織設立促進モデル事業 「災害図上訓練指導員養成講座」を企画・運営しました！！	4
平成筑豊鉄道の経営改善に向けた、今後10年間の取組を まとめたアクションプログラム完成！！	7

見・聞・食

第98回地域ゼミ「筑後七国の酒文化を愉しむ」	9
石見銀山で大久保間歩一般公開限定ツアーに参加しました	10
大牟田市民に愛されたご当地メニュー 「おおむた洋風かつ丼」復活プロジェクト	11
九州国際重粒子線がん治療センター（サガハイマツ）視察	13
近況 ブルーインパルスを見にあちこちへ	15
今年も芋焼酎「環」（かん）プロジェクト開始	17

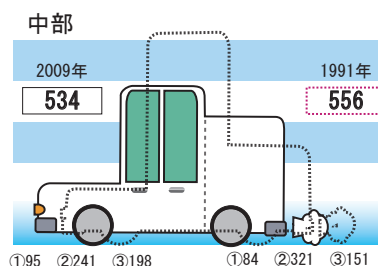
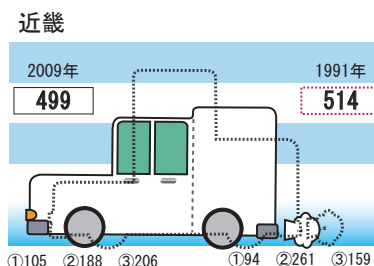
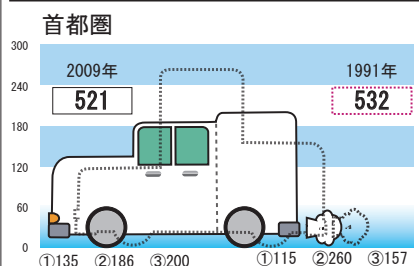
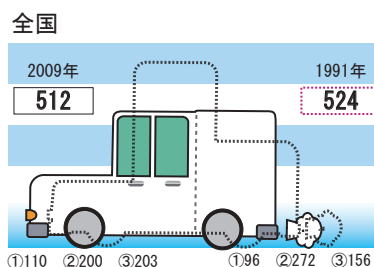
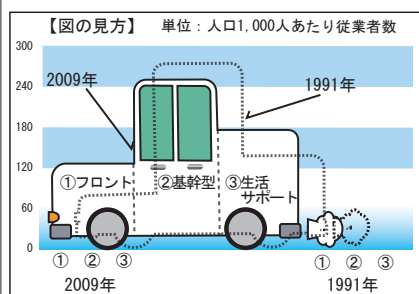
●モノづくり基幹型は大きく減少、生活サポート型の従業者数は全国で増加

15年前のよかネット No. 37 (1999. 1) に掲載したセダン型産業分類モデルについて、全産業を対象として、1991年と2009年とを比較した。

人口1000人当たりの従業者数でみると、製造業、建設業、農林水産業の減少により、各地の基幹型が減少している。生活サポート部分は、いずれの地域も約200人程度となっており、18年間で50人ぐらい増えている。一方、次の産業を準備するフロント部分は、今も首都圏の集積が高い。九州の特徴は、人口当たりの全産業従業者数は増加しており、近畿圏の構造とかなり似た構造となっている。

※産業中分類業種を基に、フロント型、基幹型、生活サポート型の3つに分け、地域づくりの方向をみるために提案したものである。

- ①フロント（フロント部分）＝次の産業を準備する産業：学術研究、専門サービス、金融・保険、不動産、情報サービス、教育など
- ②基幹型（座席部分）＝モノづくり、インフラ関連の産業：農林水産業、鉱業、建設、製造業、エネルギー、運輸・通信、卸売など
- ③生活サポート（リア部分）＝小売業、飲食、生活関連サービス、医療・福祉など



資料：平成2年～22年国勢調査人口、平成2年～22年農林業センサスにおける農業を主たる仕事とする就業人口、平成21年経済センサス-基礎調査産業中分類別事業所・従業者数、平成3年事業所統計調査産業中分類別事業所・従業者数

用途変更による既存施設の利活用について

—第3回公共施設マネジメント研究会活動報告—

本田 正明

4月22日に第3回公共施設マネジメント研究会を開催しました。今回は、福岡大学工学部建築学科の池添先生を招き、「公共施設の再編と既存施設の利活用」というテーマで話題提供していただきました。

用途変更による既存施設の利活用について、事例等の内容を抜粋して報告します。

●用途変更の利活用について

用途変更は、既存施設の全体あるいは部分を他の用途へ変更する手法だが、既存施設の面積と新用途の必要面積が適合しない場合、複合化する事例が多い。これまでは、用途変更という未利用施設や余剰施設などの機能寿命を迎えた施設が対象だったが、公共施設の再編では、サービスの再編、全体評価の中での統廃合が目的となってきた。

2002年に公共建築の再利用についてアンケート調査を行った。その際、212施設の回答があった。その内容をみると、用途転換は2000年以降徐々に増えてきている。築年数でみると、21年から40年未満のものが5割。法定耐用年数の前に機能寿命を迎えているものが7割近くになっている。新旧の用途をみると、旧用途では学校が多い。新用途では社会教育施設、複合施設の割合が大きい公民館のようなコミュニティ施設が多くなっている。

●用途変更の事例

長崎県大村市では、幼稚園を高齢者の福祉施設、放課後児童クラブに変更している。保育室の壁を取り払い1室化している。中央にPTA連合会事務局が入っているが、小さな部屋レベルの機能の要望が以前からあり、用途変更の際に空いた一室などが使われるというのが、よく見られる。幼稚園などの大ホールは天井が高いため、使い勝手が悪いという話があり、空間改変と目的が合わないという課題も生じている。

大野城市では、木造の公民館をファミリーサポートセンターに改変している。住宅整備が進み別のところに公民館を建てることになったため、元の公民館が空いた。ここでは、最初は設備の交換程度で、空間的な改変を行わなかった。数年経ってから、運営者から改変の要求があり、変更を行っている。使い込みながら徐々に変更している。

最初に大きく改変してしまうと、実際に使ってみて使いにくいと、後でまた改修するということになるので、徐々に変えていくのが大事ではないかと思う。

用途変更が進められる要因としては、行政内部の横断的な検討体制があること、地域住民の施設整備要求があることが挙げられる。また、新規用途の実験的な導入の際に既存施設が利用されるという傾向も見られた。

●空間的改変の建築的な手法

手法としては、リファイニング建築とスケルトンインフィル(以下、SI方式)いう2つがある。リファイニング建築は、青木茂という建築家が開発した手法で、RC建造物を躯体だけを残して再利用するという手法である。①用途変更が可能、②コストを約3割削減(躯体部分を補強しない場合)、③耐震基準をクリア(新たな開発申請が不要)、④新しいデザインを付加、⑤環境に配慮した建築技術、という5つの特徴があり、福岡では、八女市多世代交流館21・共生の森などの事例がある。見た目はほとんど新築と同じである。まず解体して、補強して増築する。この増築というのがミソとなっている。

共生の森では、もともとの老人福祉施設はそのまま活かし、ホール等を増築している。この手法の弱点は、既存施設の天井の高さを変えられないことであるが、ホールなどを増築することで新たな空間を生み出している。

SI方式は、骨格(スケルトン)と内装(インフィル)を明確に分離し、骨格は長持ちする耐久性を備え、内装は利用者の要望や時代の変化に応じて変えることで長期に利用しようというもので、もともとは集合住宅で使われていた方式である。床下と天井裏を整備スペースとして、排水管などを外に出すことで更新しやすくしているのがポイントである。間仕切り壁を変えることで、自由に用途変更ができるだけでなく、更新可能な設備方式をもっていることが重要になる。したがって、既存の施設でSI方式を採用するのは難しいと思っている。

●施設の民間活用

民間活用については、PFIなどの大規模な手法ではなく、小規模な施設で貸付や譲渡などを行っている事例を52件整理した。地域住民組織が活用するもの、NPO・公益法人が活用するもの、企業や個人が活用するものなどが見られるが、活用方法としては、普通財産にして、民間組織で活用するケースが多い。調べた施設では、市町村合併などによって統廃合が進み、まとまって未利用施設(特に学校施設)が出てくるケースが多い。

ある都市のケースでは、廃校になった小学校の利活用を地元を考えてもらっている。自治体負担で宿泊農業体験施設に改修し、運営は地域住民が株式会社で行っている。また、文化財や書類などの保管倉庫として利用されるケースも多い。農業や過疎などの補助金で整備された小さな施設を自治会の集会所として譲渡するケースも見られた。

複合施設は今後増えてくると思うが、さらに研究したいテーマである。

●参加者からの質問

<用途変更を長期的視点でみたときの問題点>

複合化した施設に問題が多い。大村市で用途変更した施設がその後、うまく利用されているか、見に行ったことがある。実際には再用途変更ということが行われており、保健センターはなくなり、子どもセンターに空間再編をされていた。以前は1階だけに事務室があったが、子どもセンターでは事務機能が増え、1階と2階



第3回研究会の様子

の和室部分が事務室になっている。面積が増えた場合には、本来一緒の場所にあるべきものを分けざるを得ないなどの問題が生じている。

<複合施設の今後の可能性>

複合施設は、一つの機能が変更になると、周りの機能に波及してしまい、変えるに変えられないケースがでてくると思う。既存施設にも言えることだが、空間の規模、変更の制約が大きい。長期的な利用には、SI方式で躯体の変わる部分と変わらない部分を分けて、計画的な用途変更をすることが考えられるが、それにも疑問がある。新築の時点で設備の更新しやすさも含め、増築ができる部分を予め見込むことが大切ではないかと思う。

<施設の利用や評価について>

用途変更によって生じる空間利用については、行政が何に使うかを検討するわけだが、事前に地域住民の意見をかなり吸い取っている。地元の施設利用の要望が以前から行われており、施設が空いた際に行政から利用を持ちかけるケースが多かった。余剰施設の多くは高度成長期に大量に造られており、デザイン性や機能性に優れたものが少ない。また地元の愛着なども少ない。施設の価値をどう評価するかはマネジメントの中で難しい課題である。

<民間の知恵の活用>

行政にはなかなか資産活用の専門家がいらないが、福祉施設の1階にコンビニを入れるなど、民間への賃貸などを入れている例はある。秦野市などは、外部のシンクタンクを活用しながら、アセットマネジメントに力を入れている。効率

性、合理性だけでなく、必要性の尺度はいろいろある。民間の視点は大事だが、地域の実情をどう汲み取るかの評価も大事だと思う。

●今回は玉名市の視察

施設の用途変更の事例を伺いながら、用途廃止する施設、用途変更して利活用する施設などを判断するための評価は、なかなか難しいものがあるなと感じた。新しくても使い勝手が悪く、費用のかかる施設、劣化はひどいが地元の愛着がある施設など、判断に苦しむケースは多いと思う。私たちも客観性の高い評価ツールを作成

するなどのお手伝いをするが、最終的な判断は施設を所有する自治体である。行財政の厳しさが増す中、住民にきちんと事情説明をしながら、施設の統廃合を進めていく覚悟が求められると思う。

今回は、8月に昨年「長期保全プログラム」を策定し、モデル事業を選定した上で地元協議を進めている玉名市の取り組みを現地で伺おうと考えている。ご興味のある方、参加したい方は、本田までご一報ください。

(ほんだ まさあき)

平成 26 年度福岡県自主防災組織設立促進モデル事業

「災害図上訓練指導員養成講座」を企画・運営しました！！

山崎 裕行

弊社では、昨年度に引き続き、福岡県自主防災組織設立モデル事業のお手伝いをしています。このモデル事業は、大きく2つの事業があります。その1つが、「災害図上訓練指導員養成講座（以下、養成講座）」です。これは、災害図上訓練（DIG）の方法を習得して、もう1つの事業である「地域防災ワークショップ」の際に、その運営支援を行う「指導員」を養成することを目的としています。もちろん、地域防災ワークショップに限らず、お住まいの地域で災害図上訓練を行う際にも、指導員として活躍して頂くことも狙いとしています。今年は、5月20日（火）に福岡県庁西総合庁舎で開催しましたので、その内容をご紹介します。

●講座概要

今年の養成講座は、午前の部と、午後の部の2部構成で行いました。午前の部では、「ファシリテーターになろう！～指導員として身につけたいファシリテーション技術～」と題して、佐賀市出身で、現在は京都市まちづくりアドバイザーとして活躍されている深川光耀氏を講師として招き、「ファシリテーター」や「ファシリテーション技術」に関する説明と、実際に、ファシリテーション技術を身につけるための実習を行いました。

午後の部では、「災害図上訓練（DIG）を実際にやってみよう」と題して、災害図上訓練の内容についての説明と、実際に災害図上訓練を体験してもらいました。それぞれ限られた時間で内容盛りだくさんでのぞみましたが、参加者アンケートの結果を見ると、多くの参加者に満足して頂いたようです。

●ファシリテーション技術を身につける！の内容

午前の講座では、「ファシリテーター」や「ファシリテーション技術」に関して説明して頂いた後に、3つの技術を中心に実習を行いました。その技術とは、アイスブレイクの技術、参加者の意見を引き出し、ポストイットに記入する技術、話し合われたことを発表する技術です。

1つ目のアイスブレイク。最近は、よく耳に

<本日の流れ>

1. 講座の目的

○ファシリテーターとは？

○テーブルファシリテーターとは？（指導員の役割）

2. ファシリテーション技術とは？

3. ワークを通じて技術を身につけよう

①アイスブレイク（自己紹介）の技術 ⇒ **ワーク1**

②意見を引き出し、ポストイットに記入する技術 ⇒ **ワーク2**

③話し合われたことを発表する技術 ⇒ **ワーク3**

4. 振り返り

5

ファシリテーション講座の流れ

「4マス自己紹介」を体験しよう！

①住んでいるまち 京都	②私のまちの自慢 鴨川
③私の家の防災度 6/10	④地域の防災 ・自主防災組織がある ・強み ・人のつながりが強い 課題・町家が密集

24

Machi Akari 渡辺 実

4マス自己紹介

する言葉かもしれません。これは、自己紹介や簡単なゲームを通して参加者の緊張を解きほぐし、話し合いを活発にすることを目的に行うものです。スポーツで例えると、試合前のストレッチのような効果を期待して行います。今回は、「4マス自己紹介」ということで、紙を4つに区切って、①住んでいるまち、②私のまちの自慢、③私の家の防災度、④地域の防災（強み、課題）をそれぞれ記入し、発表してもらいました。これが結構、盛り上がっていました。自分自身や自分の地域を普段とは少し違う視点で振り返って、紹介したのが良かったようです。

2つ目のポストイットに記入する技術。なぜ、ポストイットを使うのか。ポストイットの書き方などを説明した後に、講師の話を実際に書き留めてもらいました。ポストイットには、「表裏」、「上下」があることや、「ひとつの事柄に対して1枚」使うこと、「大きな文字で、端的で短い文章で書く」ことなど、「一度聞いたことがあるけれど忘れてしまった」という基本的な内容から丁寧に説明して頂いたので、参加者も忘れていたことを思い出すのにより機会となったようです。

3つ目の話し合われたことを発表する技術。1つ目、2つ目の技術に、傾聴する技術（「うん、うん」と態度で示す、「なるほど」と共感する、「メモする」と書き留める）を加えて、「大型台風の接近に備えよう」をテーマに①台風に備えて、地域や自宅で実施したい防災対策・取組をあげよう、②対策・取組を実施する期限を決めよう、という2つのことを班毎に考えてもらいました。班は、3人又は4人班として全部で16

ポストイットの書き方

<ポイント>

- ①大きな文字で
- ②端的で短い文章で
- ③ひとつの事柄に対して、1枚。
2つのことを書くなら、2枚。

ポストイット
(付箋)

30

Machi Akari 渡辺 実

ポストイットの使い方

班に分かれ、進行係、書記係、発表係と役割を決めてもらい、全員が何かの役割を担うようにしました。学んだことを即実践するという内容だったので、参加者もスムーズに作業できたようです。

普段、出来ているようで、十分ではないことの1つに、傾聴する技術があります。「うん、うん」と頷いたり、「そうですね」や「なるほど」と共感したりするのは、話し手に安心を与えます。私も、地域の方を前に話をするときは、まずは頷いてくれる方を探してしまいます。個人的には、度が過ぎると逆効果になると思いますが、適度な頷き、共感、無意識に出来るように意識したいところです。

さて、「ファシリテーター」や「ファシリテーション技術」というと、横文字であることやそれが何を意味するのか直ぐには想像、理解できないために、拒絶される方も多くいらっしゃいます。それを解きほぐすには、企画・運営側がどれだけ工夫できるかが問われます。改めて分かったことですが、午後の講座にも通じますが、丁寧な説明だけでなく、実習と合わせてすると、「ああ、そういうことか」と理解が進む点です。加えて、私自身の実感としては、「忘れにくい」という効果もあります。実習だけが工夫とは言いませんが、忘れにくくする、忘れても直ぐに思い出せるようにする仕掛けは、今後とも考え、取り入れていきたいものです。

●災害図上訓練（DIG）を実際にやってみよう！

の内容

午後の講座では、実際に1/2500の白地図、ハザードマップ、現地の航空写真等を準備して

■災害図上訓練（DIG）講座の流れ

(1) 災害図上訓練（DIG）とは—その特徴と効果
(2) 災害図上訓練（DIG）で目指すこと
(3) 災害図上訓練（DIG）での約束事
(4) 災害図上訓練（DIG）で必要なもの
(5) 災害図上訓練（DIG）の実践

①まずは自己紹介

- ・各自、「お名前」と「今日の意気込み」、「防災・減災と聞いて思うこと」について順番に発表
- ・発表が終わったら、班長（1名）、そして、発表係（1名）、書記係（2名）を決める

②【作業】あなたの家はどこですか？

③【作業】地域の特徴を知ろう！

- ・行政区全体の地形・インフラに、色を塗る

④【作業】地域の様々な資源を知ろう！

- ・行政区全体の人的、物的な資源にシールを貼る

⑤【状況付与（災害想定）】

- ・ハザードマップを参考に土砂災害警戒区域の範囲を黄色で囲む
- ・ハザードマップを参考に浸水想定区域の範囲を青色で囲む

⑥【意見交換】まちの特徴について話し合おう

- ・災害に対するこのまちの強み（プラス面）と弱み（マイナス面）を考える
- ・意見を（青色の付箋）に書き出し、模造紙に貼り付けて、みんなで共有する

⑦【作業&意見交換】自分の身の回りについて考えよう！

- ・完成した地図を元に、自分の家から避難場所までの避難経路を考える
- ・災害時要援護者の方に声かけをしながら、安全に避難できるか考える

⑧今後の対策を、2つの視点から考えよう！

- ・災害想定や避難経路を踏まえ、どのような対策が考えられるか。
- ・被害の発生を抑えるための備え、また被害を最小限に食い止めるための備えを、「自助」と「共助」の視点で考える

⑨発表の準備をしよう！

- ・発表の時間は2分。2分で、話し合った内容をどのように参加者に伝えたら良いか考える

参加者全員で災害図上訓練を行いました。災害図上訓練は、全国各地で、色々な方法で行われています。私は、簡単で誰もが気軽に参加することができ、経費もほとんど要せず、一度経験すると、即実践できる訓練だと思っています。

「簡単で誰もが気軽に参加できる」とは、地図を囲んでみんなで話し合いながら進めるため、特別な知識等を必要としないという意味です。「経費もほとんど要しない」とは、我々が災害図上訓練をする場合、最低限必要な物として、地域の白地図、ハザードマップ、マジックペン、ポストイット、各種シールの5つを紹介します。白地図とハザードマップを除けば100円ショップで揃えることができます。白地図とハザードマップは、市町村の防災担当窓口相談したら、対応してもらえそうです。

今回は、進め方を覚えてもらうことと、午前の講座内容を活かしてもらうことを重視して行いました。流れについては、上図のとおりです。

今回は、災害図上訓練未経験者も多数参加していましたが、各班とも予想以上に話が盛り上がりしました。なぜここまで盛り上がったのかを深川さんと一緒に要因を考えました。1つは、

各班に1人の経験者を入れたこと、もう1つは、参加者が自治会役員、社会福祉協議会職員、行政職員であったため、ワークショップに慣れていた人が多かったのではないかと、そして、午前の講座で学んだことを、午後の講座で活かせる内容としたことが大きいのではないかと、という結論に到りました。もちろん、参加者の防災に対する高い意識は言うまでもありません。

●少しの工夫を心がける

1日限り、そして1回のみの講座なので、如何に忘れにくい内容とするかが重要だと思います。その点では、昨年度の成果を踏まえて、「聞きっぱなしの講座にしない」とことと、「午前と午後で連動した内容とする」ことが、結果として、参加者満足度が高い講座になったと思います。その他、班構成の面で男女、住まい、災害図上訓練の経験などを踏まえた班分け、配布資料や準備物もなるべく実際に使われているものを使うといった工夫を心がけました。

もし、地域で災害図上訓練をはじめ、自主防災組織立ち上げを進めたい等のお話がありましたら、ご一報頂ければと思います。

（やまさき ひろゆき）

平成筑豊鉄道の経営改善に向けた、今後 10 年間の取組をまとめたアクションプログラム完成！！

山崎 裕行

一昨年度からよかネットではほぼ毎号にわたり紹介してきた平成筑豊鉄道（以下、平筑）ですが、今回、今後 10 年間の経営改善に向けたアクションプログラム（以下、アクションプログラム）を取りまとめましたので、ご紹介します。

●アクションプログラム策定の背景

なぜ、このようなアクションプログラムを策定する必要があったのか。実は、平筑では既に平成 15 年 6 月に「平成筑豊鉄道経営改善計画」を策定して、人件費や修繕費、他経費の見直しなどによるコスト削減に取り組んできました。また、「駅名（愛称）ネーミングライツ」や「つり革オーナー制度」等の営業企画商品の売り出しなどの増収策も取り組んできたところです。

しかし、平成 16 年度の貨物輸送廃止と、沿線の人口減少、マイカー利用増加等による利用者の減少は、これらの成果を上回る収入減につながり、ここ数年は毎年 1 億円以上の営業赤字となっていました。

平成 24 年度の年間輸送人員と旅客収入、営業収支をみると、九州北部豪雨の影響もあり、年間輸送人員と旅客収入は、それぞれこれまでの最大値の約半分である 167 万人、290 百万円、営業収支は過去最大の赤字となる -276 百万円でした。鉄道をこれから先も存続させるためには、利用者の減少に歯止めをかけ、少しでも利用者を増加させることで、赤字を削減する必要があります。そこで、新たな取組を考え、実行

していくために、アクションプログラムを策定することになりました。

アクションプログラムは、平成 26 年度から平成 35 年度までの 10 年間を実施期間として、今回、取りまとめたのは、28 年度までに実施する前期の取組です。28 年度以降については、それまでの取組を踏まえて、改めて検討することになっています。

●沿線 9 市町村の公共交通担当者と共に作り上げる

今回、アクションプログラムを策定するにあたっては、沿線 9 市町村の公共交通担当者と平筑側からは専務、調査役、総務、営業、企画の各課長からなるアクションプログラムワーキングチーム（以下、ワーキングチーム）を立ち上げ、このチームが中心となって取りまとめ作業を行いました。

各市町村には、色々な思いがあります。当初のヒアリングでは、平筑に対する厳しい意見もありましたが、ワーキングチームでは先進地視察に行ったり、プレイベントを企画・運営、意見交換を行い、プログラムを検討してきました。

策定に到るまでの間には、平筑の幹部による社内検討会議や全社員を対象とした社内説明会を開催しました。社内検討会議では、ワーキングチームからの提案内容について、どのように対応できるかを考え、社内説明会では社員の皆さんからの意見聴取というだけでなく、平筑が抱える課題共有の場、意識改革の場としました。

社内説明会は、アクションプログラムの「結びに」にもありますが、今回のアクションプログラムは、「こういうことをしたい」という事業計画ではなく、「こういうことをやる」という具体的な行動計画であり、その成否を握っているのは社員のやる気という認識から実施しました。

■年間輸送人員及び収支の状況

	最大値	平成 24 年度
年間輸送人員	342 万人 (平成 3 ～ 5 年度)	167 万人 (約半分まで減少)
旅客収入	530 百万円 (平成 3 年度)	290 百万円 (約半分まで減少)
営業収支 (=利益)	52 百万円 (平成 3 年度)	-276 百万円 (過去最大の赤字)

※平成 24 年度の輸送人員、収入の減少は 7 月に起こった九州北部豪雨に係る被害の影響が大きい

■経営理念

【企業理念】平成筑豊鉄道の目指すべき姿

安全を第一に地域とともに未来に向けて歩む鉄道サービス企業を目指します

【行動理念】社員1人ひとりが心がけること

- 私たちは安全を第一に考えます。
- 私たちはお客さまを快適に目的地までご案内します。
- 私たちは地域の財産である鉄道を守っていきます。
- 私たちは鉄道を通じて社会や地域に幸せと笑顔を運びます。

■経営目標

目標1：年間輸送人員 200 万人以上

目標2：営業赤字額△ 6,500 万円（平成 23 年度の約半分）

※目標2は、平成 22 年度、24 年度とも災害の影響があるため、平成 23 年度を基準としている

●取組の推進に向けて－担当責任者と実施時期を 明記する－

さて、このような計画を作ると、必ずと言っていいほど指摘されるのが、各取組がなかなか思うように実現せず、結局、「絵に描いた餅ではないか」ということです。アクションプログラムでは、そうならないように3つ工夫しました。1つは、各取組の担当責任者と実施時期を盛り込み、進捗状況を把握出来るようにしました。2つ目は、取組の評価・見直しの仕組みを盛り込みました。そして、3つ目は、これまで平筑には無かった「経営理念」と「経営目標」を定めました。

1 点目については、早速、平筑内にアクションプログラムを推進するための統括部署が組織され、そこが中心となって各取組を進めているそうです。2 点目については、一度、やってみないと分かりませんが、適宜、見直ししながら進めることで、より良い取組になると思っています。3 点目、経営理念は、企業理念と行動理念の2つを示し、経営目標は、平成 35 年度までに達成を目指す目標として定めました。

●平筑への想い

この2年間、平筑をはじめとして筑豊、京築地域をよく訪ねました。今年度も、ちょくちょく回っていますが、平筑はこの両地域をつなぐ唯一の公共交通機関です。確かに、沿線の人口減少などにより、利用者は減少しています。爆発的な人口増加、利用者増加が期待できないなかで、苦しい経営環境は続きます。ちなみに、黒字経営のためには、シミュレーション結果からは、最低でも年間 250 万人程度の輸送人員が必要な路線です。維持していくためには、平筑の経営改善努力はもちろんのこと、沿線 9 市町

村の補助も不可欠です。けれども、平筑は、人と人、地域と地域とを乗り換え無しで結ぶ貴重な路線であり、残していく価値の高い鉄道だと思います。まだまだ沿線には埋もれている観光資源はありますし、昨年度からのウォーキングの取組や、アクションプログラムで位置づけた取組を着実に実行することで、利用者の増加は実現できるはずです。ローカル鉄道の中には、地道な努力を積み重ねて利用者増加や赤字削減を達成しているところもあります。

一方で、鉄道は多額の維持費がかかります。廃線にし、例えば線路跡をバス専用レーンとして整備して、バスで結ぶという選択肢もあります。その場合、恐らく、今よりも自治体負担は減るのではないかと思います。けれども、大量輸送・定時輸送は難しいでしょうし、自家用車による送迎の増大や、それに伴う道路混雑といった別の問題を生む可能性もあります。

国鉄から JR、そして平成筑豊鉄道へと、沿線自治体と住民、事業者を中心として、鉄道を残すと判断されてから四半世紀が過ぎました。鉄道存続あるいは別の方法、どちらがよいのか、いずれまた判断しなくてはならない時期がくると思います。その時に、「平筑はやはり必要だし、残していく」と思ってもらえることが大切です。私も、出来る限りお手伝いを続けたいと思います。（やまさき ひろゆき）

今後 10 年間の経営改善に向けた
アクションプログラム
（概要版）

平成 26 年 3 月
平成筑豊鉄道株式会社

出来上がった
アクション
プログラム

第98回 地域ゼミ

「筑後七国の酒文化を愉しむ」

本田 正明

4月18日（金）に開催した98回目の地域ゼミは、話よりもお酒メインの会でした。筑後船小屋のまち歩きでもお世話になった九州芸文館の安西さんを招き、筑後七国の酒文化の話を伺いながら、実際のお酒も味わうという趣旨の会です。大分からの参加者がいたり、自家製の料理の持ち寄りがあったり、さながらミニよかネットパーティでした。

以前、九州芸文館を訪れた際、「チクゴ七国の酒文化」のイベント案を見せてもらう機会がありました。企画書には、旭松、藤娘、喜多屋、繁桝、菊美人など、様々な銘柄が並んでいます。恥ずかししながら、筑後には30を超える酒蔵が残っていることをこの時まで知りませんでした。「自分たちの住むまちの『地酒』を今一度来客者に誇れるような酒文化のイベント」にしようという主旨で、柳川杜氏の歴史や各社の特色あるラベル展などが企画されていました。

「でも、今回はボツになったっちゃんねー」と安西さんが残念そうに語るので、「酒造りは地域づくりにつながりますよ。せっかくやけん、利き酒と地酒紹介ぐらいやりましょうよ！」と私から提案すると、企画で学んだことを活かせるのであれば、ということで地域ゼミを実施することになりました。筑後の酒を全部集めるのは難しいので、今回は矢部川流域編として、8

■出品銘柄一覧

銘柄	地域	蔵元	原料米	精米歩合	日本酒度	ALC	安西コメント
極醸大吟醸 喜多屋	八女市	株式会社 喜多屋	山田錦 (糸島産)	35%		16～17	優雅で華やかな香りと、透明感のある味わい、余韻が絶妙のハーモニー
神力 (純米大吟醸)	みやま市	玉水酒造 合資会社	神力	50%	+5	16	大正から昭和にかけて栽培された幻の酒米(山川町産)
国の壽 (純米吟醸)	柳川市	目野酒造 株式会社	寿限無	50%	+6	15	地元で愛される酒をめざし特別栽培米で造る酒
菊美人 (純米吟醸)	みやま市	菊美人酒造 株式会社	山田錦	50%	+4	15～16	白秋が愛飲した酒、かつての矢部川流域の酒処、瀬高町の酒蔵
若波 (純米吟醸)	大川市	若波酒造 合名会社	夢一献	55%	+3	16	若き蔵人が活躍し、新風をおこす酒蔵
松和 (純米吟醸)	八女市	旭松酒造 株式会社	夢一献	60%	+3	15	初代の名前「和蔵」の一文字をとった酒
吟の里 (特別純米酒)	八女市	株式会社 高橋商店	吟の里	55%		15	高い比率で地元で飲まれている酒、爛につけてもいいけます
金欄藤娘 (本醸造生貯蔵)	八女市	合資会社 後藤酒造場	夢一献	55%	+5	15.9	13代が守る、県内で古い酒蔵



神力の説明をする安西さん

つの蔵元のお酒をセレクトしてもらいました。

目玉はなんといっても、IWC2013（インターナショナル・ワイン・チャレンジ）でチャンピオンになった「大吟醸 極醸 喜多屋」です。これを目当てに参加した人も多かったのですが、実際に飲み比べてみると2番人気。1番人気だったのは、玉水酒造の「神力」でした。

神力（しんりき）は酒米の名前で、大正から昭和にかけて栽培された幻の酒米を復刻したものだそうです。地元の店への出荷が100%で、市場に全然回っていないそうです。蔵元も昔ながらの造り方をしているそうで、蔵めぐりもしたいと盛り上がりました。他のお酒もクオリティが高く、甲乙つけがたいものばかり。筑後の酒のレベルの高さに、参加者は皆さん驚いていました。さっそく次回は、という声が聞こえて来そうですが、秋あがり、ひやおろしが出る季節にでも、筑後川流域編をやろうか、それとも玉水酒造の見学会をやろうかと計画中です。

（ほんだ まさあき）

石見銀山で大久保間歩一般公開限定ツアーに参加しました

本田 正明

富岡製紙場が世界遺産に登録される見通しとなり（6月21日に登録決定）、GWに大変賑わっているというニュースが流れていたが、宗像市、福津市の「宗像・沖ノ島関連遺産群」も同様に世界遺産の登録を目指している。4月初めに、世界遺産の来訪者調査の一環で石見銀山を訪れた。調査の目的は、観光客増加による周辺への影響を把握することだった。ヒアリングだけでは現状はわからないため、「大久保間歩一般公開限定ツアー」に参加した。

年間20万人以上が訪れる龍源寺間歩（まぶ）は、石見銀山のメインスポットだ。石見銀山を訪れる人のほとんどが、天領だった大森地区の町並みを散策しながら、この坑道を訪れる。他の所員にこちらを見てもらい、私は、石見銀山最大の坑道跡といわれる大久保間歩を見てまわった。

大久保間歩ツアーは4月から11月の週末に限って公開されている。2時間30分の行程で3,800円（入坑料2,000円含む、食事なし）である。強気な値段設定だなと思いつつ、参加者をみると、小雨の降る悪天候にもかかわらず、16名が参加していた。群馬県、長野県、東京都という遠方からの利用が多い。さすがに全国区だなと思うが、日帰り客は、参加しづらい料金設定かもしれないと感じた。

大久保間歩は龍源寺間歩から、かなり離れた場所にある。世界遺産センターからバスで移動し、大久保間歩の麓からは山登りである。歩き始めて、ほどなく舗装がなくなるが、ここが世界遺産の区域と緩衝地帯の境目となっている。舗装の素材一つでも基準が厳しいそうだ。山中を歩きながら、大小様々な間歩があちこちに存在していた。間歩というのは明治以前の呼び名で、明治以後は坑道と呼ばれている。石見銀山には露頭堀も含めて600以上も間歩や坑道があり、明治以降の近代的な掘削まで様々な痕跡が



大久保間歩と龍源寺間歩の位置関係

残っている。露頭から鉱脈をそのまま掘り進むと、地下水が湧き上がり、水が溜まって作業ができなくなる。そのため、排水を兼ねた横相（よこあい）という水平坑道が掘られている。石見銀山の場合、鉱脈が東西に走っているため、南北に横相が掘られているようだ。そうしたガイドさんの話を聞きながら30分ぐらい歩くと、ようやく大久保間歩が見えてきた。手前の小屋で長靴に履き替え、ヘルメットと懐中電灯を借りて入坑する。手前を歩く人の姿も見えない真っ暗闇だ。江戸時代には、サザエなどの貝殻に油を入れ、そこに火を灯したものをくぼみに置くなどして灯りをとったそうだ。掘削跡も時代によって違うそうで、江戸時代は手仕事なので、壁面の仕上がりが非常に綺麗である。

坑内は、坑道だけでなく、鉱脈跡や排水溝などの坑が縦横無尽に伸びている。目印がないので、方向感覚を失う。歩けるエリアは限定しているが、ガイドがなければ、簡単に迷子になりそうな空間だった。（「大久保間歩」で検索すると、グーグルのストリートビューで坑内の様子をみることができる）

大久保間歩の外に出ると、参加者一同、「すごかったー」「怖かったけど満足」等と感想を口にして、ツアーが終わった感が漂っていたが、実は、まだ釜屋間歩の見学が残っていた。

釜屋間歩は大久保間歩から300mほど登ったところにある。山師、安原伝兵衛が開発した間歩だ。最盛期には、年三千六百貫（13.5トン）の運上銀（税金）を収めたそうだから、相当稼いでいたようである。坑道の入口は狭く、我々が入ることができないので、大久保間歩のよう



大久保間歩の坑道内。
もっとも広いところ
は高さ 30m もある

なスケールを感じられないのは残念だったが、釜屋間歩の功績で、徳川家康へのお目見えが許され、大量の銀を献上し、家康着用の御羽織を賜ったなどの話は非常に面白かった。石見銀山の歴史は戦国時代から江戸時代に重なるので、歴史好きだともっと楽しめたかもしれない。

地域づくりの視点だと、出発前に模型図で、山頂付近の平地の多さが気になっていた。聞いてみると、農地ではなく宅地だったそうである。「石見銀山旧記」には最盛期には人口 20 万人という記述があるそうだが、当時の大阪や京都に並ぶ人口規模なので、ガイドさんは実際には 10 万人程度ではないかといっていた。現在は 500 人程度しか住んでいないので、10 万人でも 200 倍の人口である。どんな集落だったのかを想像するのも面白い。

石見銀山は、わかりにくい世界遺産と言われるそうだ。これぞ世界遺産という風景はないし、ガイドの説明がなければ、確かに魅力がイマイチわからない。予備知識がなくても単純に理解でき、視覚的に楽しめる遺産ではなく、興味関心や想像力のいる知的な遺産だと思う。事前の勉強を省きたければ、ガイドは必修である。これまで、旅行でガイドを利用したことはなかったが、ガイドの有る、無しでは、満足度の差が全然違う。大久保間歩の大空間では、石見銀山の最盛期の凄さを肌で感じたが、それも事前のレクチャーに寄る部分が大きい。ツアーガイドの重要性を改めて感じたツアーだった。今度来るときには、ぜひ銀の積出港だった鞆ヶ浦港までの街道をガイドと散策してみたい。

(ほんだ まさあき)

大牟田市民に愛されたご当地メニュー 「おおむた洋風かつ丼」 復活プロジェクト

原 啓介

●炭鉱の隆盛・衰退と運命をともした大牟田

松屋は、大牟田のシンボリック存在の一つだった

大牟田市は江戸時代末期より石炭化学工業で栄え、昭和 30 年代には人口が 20 万人を超えた。当時、石炭採掘という危険な仕事に従事した炭鉱マンたちが「宵越しの金は持たない」と気前良くお金を使い、独自の食文化が形成されるとともに、中心市街地が拡大し、大規模商業施設が次々に立地した。

福岡の松屋呉服店が大牟田市に進出したのは炭鉱最盛期を迎える前の昭和 12 年のこと。売り場面積は約 1 万㎡、鉄筋コンクリートの 6 階建て。当時の市内には鉄筋コンクリートの建物や、エレベーターを備えている施設が少なく、市民にとって「大牟田松屋に行ってエレベーターに乗ってきた」という体験は一種のステータスだったようだ。しかし、エネルギーの主役の座が石炭から石油に代わり、三池鉱の縮小に伴う人口減少や、福岡・熊本都市圏への顧客流出等で、大牟田松屋の売上は 1981 年をピークに減少、1992 年以降は赤字が続き、ついに 2004 年 7 月 2 日に閉店、2007 年には建物が解体された。

私は大牟田松屋に行ったことは無いが、大牟田や熊本県北、筑後地域の方々に思い出を聞くと、「子どもの頃は松屋に行くのが楽しみでたまらなかった」「年に数回連れて行ってもらい、特別な場だった」など、様々な思い出を聞くことができ、周辺の住民にとってハレの場として愛されてきた存在だったのだと感じる。

●洋風かつ丼は、閉店・解体された旧大牟田松屋内レストランの人気メニューだった

大牟田松屋の 6 階には、有明海が見渡せる屋上遊園地やファミリー食堂があり、多くの家族連れで賑わったそうだ。この食堂の名物メニューが「洋風かつ丼」である。開店とほぼ同時に開発されたメニューとされ、値段は 650 円。

楕円形の皿に盛られたごはんの上にロースカツが乗っていて、さらにその上から鶏やさば節等でとった出汁と地元産の醤油、ウスターソースで味付けされたとろみのある「あん」がかけられる。傍らにはキュウリやトマト、スパゲティ、グリーンピースがトッピングされていた。

この洋風かつ井は大牟田市民にとっても愛されており、「毎月数回食べていた」「大牟田松屋といえば洋風かつ井」という方も多い。親に大牟田松屋に連れて行ってもらい、玩具や洋服を買ってもらった後に、洋風かつ井を食べる。また、たまに自分へのご褒美として洋風かつ井を食べる。そんな、ちょっとした非日常感、高級感のある素敵な思い出とともに記憶に残っているような存在だ。

しかし、大牟田松屋の閉店とともに食堂も閉鎖された。一時期、食堂の元従業員が経営する飲食店で「洋風かつ井」というメニューが出されていたが、後継者不足等で閉店したそうだ。それ以来、提供しているお店が無くなったために寂しく思う市民は多く、コアなファンを中心に、その復活が望まれていた。

●自称「大牟田市内屈指の洋風かつ井好き」が集まり、オリジナルメニューを復活させた

こうした洋風かつ井ファンの代表格が、市内でこの栽培・販売事業を営む大塚力久さんだ。大塚さんは幼少時から洋風かつ井が大好きで、大牟田松屋閉店後も独自にレシピの復刻に挑み、奥様によると少なくとも百数十回は試作を繰り返したそうだ。「洋風かつ井を食べることができるお店を作りたい」という思いからの挑戦であった。

大塚さんの周囲には、商工会議所の山科敏彦さんをはじめとして、負けず劣らずの洋風かつ井好きが集い、4～5年前から、レシピの復活に向けた話し合いを開始していた。

そして試行錯誤の末の平成25年、ついに大塚さんが「再現できた!!」と納得がいく洋風かつ井のレシピが出来上がり、これを機に復活に向けた動きが加速。8月には「旧松屋デパートの洋風かつ井復活プロジェクト研究会」が組織され、試食会が開催された。研究会のメンバー



復活した「おおむた洋風かつ井」

「おおむた洋風かつ井」の定義

- ・ソースは醤油とウスターソースと片栗粉を絡めた味が基本
- ・とんかつはロースが基本
- ・盛り付けはトマト・きゅうりの生野菜とパスタ麺をトッピングし、最後にグリーンピースで飾り付けするのが基本
- ・深めのカレー皿に盛りつけるのが基本

は商工会議所の副会頭や食品、サービス業部会長の他、地元の醤油メーカーや洋風かつ井愛好家、大牟田松屋の元社長と、6階食堂の元料理長といった方々である。私も大牟田ブランド化の専門委員を拝命している関係で、この研究会にも参加し、事業計画づくりのお手伝いさせていただくことになった。

松屋の元従業員の方々10数名が参加した試食会等、10数回にわたる試作を経てレシピや洋風かつ井の定義が確定、メニューの正式名称は「おおむた洋風かつ井」となった。市内の企業、個人による「大牟田洋風かつ井応援隊」の組織化や、老人介護施設での食事、学校給食での提供に向けた調整が進められるなど、市民による支援の動きも広まっている。また、市内イベントでハーフサイズ300食を、300円で限定販売したところ、約30分で完売してしまうなど、人気や注目度は高い。このオリジナルレシピは公開され、継承を希望した大牟田市内の2店舗で7月2日から提供される。他に、市内数十店舗で、できるだけ上記定義を守りながら、店舗毎の独自のアレンジが加えられたメニューとして提供される予定だ。

●ご当地グルメづくりはまちづくり

この「洋風かつ井復活プロジェクト」は、ご当地グルメを復活させ、飲食店の売上を拡大する取り組みだけに留まらない。地域ブランドづ

くりや特産品開発、ご当地グルメづくりにおいて、地元住民へのブランド価値の浸透・共有は、とても大事な要素だ。地元ファンは日常的な顧客であり、熱心な宣伝隊である。まずは大牟田市民が、洋風かつ井に親しみ、愛着を持ち、この復活の動きをともに盛り上げ、楽しむことが重要で、市外への発信よりも、市内での仲間づくりや浸透に力を注ぐことが今は大事である。

また、洋風かつ井の復活プロジェクトは、かつ井を通して大牟田市民が記憶を思い出し、語り合うことで、地域への愛着を感じたり、多世代の協働を促進していく「まちづくり」の一環だ。そして、その盛り上がりが少しずつ様々なメディア、クチコミで拡散されることで、大牟田の認知を広げ、まちに来るきっかけになる。なお現時点で、新聞に20回程度、テレビ8番組で取り上げられ、大牟田市外への情報発信機会も増加している。

加えて、美味しいことは大前提として、「できるだけご当地に、昔からあるものを素材として取り上げること」と、「プロジェクトを推進していく地元リーダーが存在すること」が重要と思う。今回のプロジェクトでは、大塚リーダーをはじめとしたコアメンバーが、市内の様々な企業、団体に所属し、洋風かつ井への郷愁を心に抱く「洋風かつ井ファン」達を次々に巻き込んでいる。この情熱、巻き込み力には本当に感心する。また、大塚さんの回りに集まるメンバーは、建築関係やファッション関係等、自分のビジネスとは直接関係がない方々であり、まちの活性化、にぎわいづくりを目的とした活動である。こうしたまちのための活動であるということも、徐々に活動が広がりを見せ、メディア等で取り上げられている要因のように思う。

今後は、大牟田松屋閉店からちょうど10年となる平成26年7月2日にオリジナルレシピの復活イベントが開催され、以降、洋風かつ井のマップづくり、市民応援隊の結成や学校給食、老人介護施設での提供等が検討されている。ゆくゆくは、若年層にも定着し、大牟田のソウルフードとして受け継がれていくものとなっていきたい。(はら けいすけ)

九州国際重粒子線がん治療センター (サガハイマツト) 視察

山田 龍雄

去る5月19日、元協同組合地域づくり九州の有志メンバー6名でサガハイマツトを見学してきました。

この施設の管理会社の社長は、福岡市の元助役の山野宏氏です。山野氏は、福岡市の助役を退職された後、この施設の導入から立ち上げまで参加され、引き続き、この施設の管理会社の代表として、施設管理に携わっておられます。

山野氏が助役時代に元協同組合代表の糸乗と交流があったことから、今回の視察受入れを快く引き受けていただきました。

サガハイマツトは昨年度の5月に竣工し、治療開始は8月からなので、あと2ヶ月で約1年となります。施設は新鳥栖駅の正面にあり、歩いて3分で行けます。九州新幹線が全線繋がったことで交通条件としては最高の位置にあるといえます。

到着すると、応接室に案内され、山野氏からサガハイマツトの概要や治療の効果などをお聞きしました。

●重粒子線がん治療とは

がんの治療方法は、一般には外科療法、化学療法、放射線療法、免疫療法の4つが主な治療方法ですが、放射線治療のひとつとして、近年、注目されているのが、重粒子線療法です。これは、光の速さの70%に加速した炭素イオンを、がんの病巣に狙いを絞って照射し、がんのDNAをバラバラにすることにより、がんを消滅させる最先端の治療法です。カタログの施設断面図をみると、直径20mの円形の加速器(シンクロトロン)が建物のほど半分を占めています。重粒子線は、エックス線やガンマ線に比べて、がん病巣にエネルギーを集中して照射するため、周り及び手前にある正常細胞へのダメージ(副作用)を最小限に抑えることができるのです。

重粒子線のがん治療は、体を切らずに済むた



九州国際重粒子線がん治療センターの玄関口正面からみる。新鳥栖駅から歩いて3分と近い。(パンフレットより)

め、普通の生活をしながら通院でがん治療ができ、体力に不安のある高齢者などにも可能な治療方法です。また、骨肉腫など従来の放射線治療では効きにくいがんや、複雑な場所にあるために、手術が困難ながんにも治療の可能性が広がると言われています。

重粒子線は陽子線やエックス線、ガンマ線に比べてがん細胞を殺傷する能力が2～3倍ほど高く、一回の照射で得られる効果が大きいため、治療期間も短くできます。

サガハイマットでは、3室の治療室がありますが、現在2室を稼働させています。3室目は、将来、次世代型の3次元スキャニング照射装置の導入を予定しています。

全国で、重粒子線がん治療を行える所は4箇所、陽子線がん治療が行える所は8箇所です。

●運営は公益財団法人、施設管理株式会社の2本建て

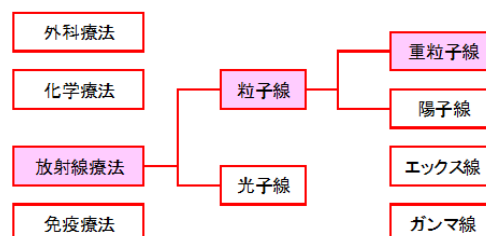
本施設の事業費は約150億円であり、その建設にあたっては、佐賀県、福岡県、鳥栖市からの補助金をはじめ多くの企業の寄附や出資を募りました。寄附行為に対しては（公益財団法人）佐賀国際重粒子線がん治療財団、出資については九州重粒子施設管理株式会社というようにその形態に応じて使い分けされています。

財団は、施設管理会社と建屋の賃貸契約を締結し、賃料を支払い、がん治療の実際の運営を行っています。ただし、重粒子線の設備については財団の所有となっているそうです。

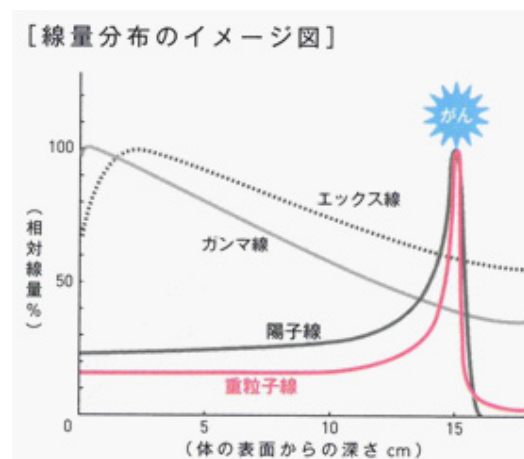
山野さんの話では「この施設の事業計画では年間800人で20年間稼働すれば、事業上はペイします。現時点で650人の患者さんが来てい

■建物概要

- 敷地面積：11,239.94 m²
- 法定建ぺい率：71.38%、
- 法定容積率：200%
- 建物用途：診療所
- 建築面積：4,641.84 m²
- 延べ床面積：7,512.31 m²



ガン治療法の分類



線量分布のイメージ図

るので、年間の目標は達成するのではないかとと思う」とのことです。

●治療効果は？

世界で初めて医療用の重粒子線治療を開発され、これまで8,000例の治療実績のある放射線医学総合研究所の辻井博彦氏によると「重粒子線を照射した部位については概ね8～9割以上の患者さんで治療効果が確認されている」とのことです。また、前立腺がんでの5年生存率が96%と報告されています。

このように、これまでの放射線治療に比べて非常に優れた治療方法ですが、対象となるがんは、ひとつの部位の留まっている固形のがん（頭蓋底腫瘍、頭頸部がん、肺がん、食道がん、肝臓がん、膵臓がん、子宮がん、直腸がん、前立腺がん、骨肉腫など）であり、白血病のような血液のがん、広範に転移のあるがん、胃がんや大腸がんなど不規則に動く臓器のがん、過去に

放射線治療を受けている部位などは治療の対象とならないそうで、全てのがんに有効という訳ではありません。

●ここで治療を受けるためには？

私も含めて訪問したメンバーの大半が勘違いしていたのですが、治療を受けたいときには直接、この施設にあればよいのかと思っていたところ、先ずは他の医療機関で必要な検査を行い、がんと診断され、重粒子治療を希望する患者さんを、主治医から紹介してもらうことから始まります。

サガハイマツでは、他の病院からの紹介状と検診資料を準備し、セカンドオピニオン（自身の診断内容や治療法などについて、自分の担当医以外の医師から意見を聞き、治療法などの参考とすること）を受診することができます。セカンドオピニオンを受診することで、安心してがん治療に臨むことができるのではないかと思います。

本施設は、用途的には診療所となっており、入院施設はなく、通院での治療となっています。実際に遠方から治療に来られる方は、鳥栖市内のホテルに泊まり、集中して治療を受けるそうです。福岡市内の患者さんは、通院して治療を受けている人もいます。

費用負担は、先進医療となるので全額患者さんの負担（1セット概ね314万円）となりますが、通常の治療と共通する部分（診察、検査、投薬等）の費用は、公的医療保険が適用されます。

自己負担分の費用は、診察、治療準備、照射治療（がん治療の効果がみられる照射回数分）全て含まれています。例えば、前立腺がんの場合は、通常12回の照射回数分が含まれることになります。照射治療を行う準備として、体に固定する固定具の製作、CT撮影によるがんの位置の測定等を行い治療計画を立てます。また治療リハーサルを行うこともあるので、場合によっては、治療準備に1～2週間程度かかることもあるそうです。

現在では、民間の保険会社から先端医療の費用を保障する保険商品が多数出ているので、将来、この治療を受けることを希望する人は、保

険に入っていた方が良いと思われます。

運営を開始してまだ10ヶ月であり、これから治療効果がPRされれば、もっと患者さんは増えるのではないかと推測されます。

今回、サガハイマツを視察させていただき、がんの先端治療を勉強できたことは個人的にも非常に有意義でした。私も、そろそろがんが襲ってくる年代となってきました。この重粒子線の効果を知り、先端医療の保険に入る準備をしなければと思った次第です。（やまだ たつお）

近 況

ブルーインパルスを見にあちこちへ

昨年、見に行った芦屋基地航空祭ですっかりブルーインパルス（以下ブルー）にはまってしまい、今年に入って、松島（宮城）、鹿屋（鹿児島）、山形、東京、再び松島、美保（鳥取）に行ってきました。

ブルーは、雲の高さや視程（してい：水平方向での見通せる距離）などの気象条件によって可能な飛行内容が変わります。晴天時だと「第一区分」、気象条件が悪くなるにつれ第二区分、第三区分、第四区分となり、垂直系のアクロバット飛行は、第三区分以降では、ほとんど見られません。私が見た芦屋航空祭は、「第三区分」で、しかも2機トラブルで飛ばず4機での展示飛行でした。それでも、あの感動でしたので、いつかは「6機での第一区分」が見たいと思っていました。

ブルーが所属する松島基地（宮城県）では、普段から基地上空や洋上で訓練飛行が行われていると知り、3月下旬に松島に行きました。ブルーは1月の訓練中に接触事故を起こしてしまい、原因解明等の為しばらく訓練中止になっていました。その後、パイロットの技量維持の為、アクロバットができる機体ではなく通常の機体での離着陸訓練を経て、ようやくアクロバット訓練再開という中、私が行ったのは、ちょうど基地上空での訓練再開の日でした。

基地周辺には、アクロバット訓練再開を心待ちにしていた沢山のファンが来ていました。そ



山形での東北六魂祭。演目は「サクラ」。大きすぎてスマホでも入りきれませんでした。

の日行われたのは、「第一区分」。しかし機体は3機。それでも、きれいに揃った編隊を組んで、空に向かって縦に飛んでいく様子や、高いところから急降下していく飛行を見て、大興奮し、松島まで行った甲斐がありました。

後日、松島で知り合った人から4月に鹿屋であるエアメモでブルーが飛ぶという情報をいただきました。エアメモとは「エアーメモリアル in かのや」の略で、海上自衛隊鹿屋航空基地で行われる航空祭のことで、主催が基地ではなく、鹿屋市なのだそうです。しかもブルーがエアメモに参加するのは「鹿屋航空基地開隊何十周年」の時だけらしく、前回飛んだのは10年前の2004年。これは行くしかないと思い、4月下旬に鹿屋に行ってきました。

現在ブルーに所属しているパイロットは12名。なんと、その内3名が鹿屋高校出身の方。鹿屋高校は、優秀すぎます。当日はあいにくの曇り空で、「第四区分」でした。でも初めて6機揃ったところを見たのと、その日は朝早くから並び最前列で見たので、音などの迫力に感動しました。途中、小雨がぱらついた中、最後まで飛んでくれた事に感謝です。

その鹿屋で東京の方と知り合いになり、意気投合し、盛り上がって、5月に山形である東北六魂祭と6月に松島と美保に行く約束をしてしまいました。

東北六魂祭とは、東北6県の祭りを一同に集めた祭りで、東日本大震災の後、2011年に仙台市、2012年に盛岡市、2013年に福島市で開催されました。今年は山形市で、ちょっと遠いな



「SAYONARA 国立競技場」。ブルーが都心の上空を飛びました。

と思いましたが、約束したので、5月下旬に行ってきました。

基地以外の上空を飛ぶ場合、第〇区分という決まった内容ではなく、その時々で違う演目をするので、そこも楽しみの1つです。当日は晴天。ブルーが上空を飛ぶパレード通りには、沢山の人が集まっていて、皆が空を見上げ、ブルーが飛ぶたびに、歓声が上がっていました。その後、ブルーの隊員によるトークショーがあるので、メイン会場へ移動。そこで、一番密集した編隊飛行の時の機体間の距離は最短で90cmしかないという話があり、改めてすごいなと思いました。

5月末、東京の国立競技場の取り壊しに伴い「SAYONARA 国立競技場」というイベントでブルーが飛ぶと聞き、行く予定はなかったのですが、山形でまた盛り上がり、行ってきました。

内容は航過飛行といって、定まった編隊での直線飛行でしたが、都心をブルーが飛ぶというのは新鮮でした。偶然見られた方も沢山いたのではないのでしょうか。

6月上旬の2日間、再び松島基地に行きました。今回は、2日目に基地見学と、中の食堂での昼食を申し込んでいたので、楽しみにしていました。松島基地では、天候により変更はありますが、1日に3～4回、基地上空又は洋上での飛行訓練が行われていて、基地上空での訓練は、基地周辺から見ることが出来ます。

1日目天気予報は晴れでしたが、まさかの霧の影響で、1回も飛ぶことなく終了。この時期、松島ではシーフォグといって海からの霧が多く



基地内での昼ご飯。月一度の誕生日メニュー。ご飯が少なさそうですが、これは丼です。

でるのだそうです。とりあえず時間が空いたので、石巻市まで足を伸ばし、お土産を買う事にしました。しかし、知らないまちだったため右折禁止のところを右折してしまい交通違反、高い土産物になりました。

2日目の予報は曇り。まさか基地に昼ご飯食べに來ただけになってしまうのでは?! と思っていましたが、基地上空訓練が1回目の時間の予定が、2回目の時間に変更になったおかげで、見学の時間と重なり、基地の中から見ることができました。内容は5機で3区分でしたが、建物の屋上から見たので、めちゃくちゃ近い所を飛んだりして迫力がありました。

その後、食堂で昼食をいただきました。その日は月一度の誕生日メニューだったらしく、いつもより若干豪華な上、デザート付でした。味も美味しく、松島基地のご飯は評判がいいそうです。

東日本大震災の際、この松島基地も津波でかなり被害を受けています。正門入った受付のところや、展示してある昔の航空機に「津波到達ライン」という線が引かれていました。震災後、ブルーの格納庫は3.6mかさ上げされ、現在も他の場所のかさ上げ工事、防波堤の設置などの工事が行われています。これが完成し、安全が確保されない事には、松島基地での航空祭は再開されないようです。1年でも早く再開されて欲しいですし、その時は是非行きたいと思っています。

松島から帰って3日後、美保基地航空祭に行きました。美保基地は鳥取県にあり、米子鬼太

郎空港と隣接しています。その週の頭から九州は梅雨入りし、美保も当日午前中は雨が降っていました。正午頃には雨は止み、「ブルーの展示は予定通り行います」とのアナウンスが流れ、6機で滑走路まで行きましたが、5番機が最初に離陸。通常1番機から離陸するのが、5番機が最初に飛ぶというのは、天候偵察のためです。しばらく5番機が飛んだ後、「本日の展示飛行は中止となりました」とのアナウンスがありました。後でパイロットの方に聞いたら、雲の高さが基準を満たしてなかったそうです。残念でしたが、こればかりは、しょうがないです。

福岡では、11月16日(日)芦屋基地、11月30日(日)築城基地で航空祭があります。ブルーも飛ぶ予定です。是非、行ってみて下さい。

(佐伯 明日香)

今年も芋焼酎「環」(かん)プロジェクト開始

平成22年度から取り組んでいる八女市上陽町での芋焼酎「環」プロジェクトは、今年で5年目を迎えます。芋栽培は平成22年度から開始し、芋焼酎の販売は平成23年度の秋からなので、販売自体は4年目です。

この「環」プロジェクトは、平成21年度の「過疎集落の安心・安定の暮らし維持構想策定事業(国土交通省モデル事業)」で上陽町の中山間地・上横山地区をモデルに、地元の人や関係者の方々と一緒に地区の課題やビジョンづくりのためのワークショップをしている中で生まれたものです。

上陽町の休耕地を活用し、地元の人と都市住民とが力をあわせて芋(コガネセンガン)を植え、これを黒木町にある(合資会社)後藤酒造場にお願ひし、焼酎にしてもらってます。

この焼酎「環」の1次仕込み(米を蒸し、冷却後、麴菌を種掛けし、一定温度で管理した麴に酵母と水を加え、アルコール発酵をさせること)では、清酒で使う「黄麴」を使用しており、少し甘めで、私個人としてはお湯割りよりロックや水割りで呑むと後味もすっきりで、美味しい焼酎が出来上がっています。特に女性に人気のある焼酎となっています。

昨年からは自分の体験農園での野菜栽培



今年の芋苗植え付け作業、近日中に雨が降ることを願いながら植えました。

もあり、なかなか芋づくりに参加できなかったのですが、去る6月8日（日）に芋苗の植え付けに参加してきました。

この日は雑草掻きから始まり、マルチ張り、芋苗植えと、朝の9時から夕方16時まで参加しました。この時点で芋苗植えは、まだ半分以上残っている状態でしたが、私は次の約束があり、最後まで手伝うことができませんでしたが、順調に生育してくれることを願うばかりです。

今年は、上陽町の生駒野（いごまの）地区、約8畝の畑に、(NPO 法人) グラウンドワーク福岡の所員や会員さんと地元の人で芋を植えています。また、真名子（まなご）地区では買取方式で地元の方に芋を植えて頂いております。

生駒野地区で順調に生育すれば、約1トンの芋が収穫できる予定ですが、昨年度は、猪とアナグマにより一部被害にあって、収穫量は見込みより落ち込んだとのこと。生駒野地区での今年の収穫見込み量として800kgを目指しています。

この芋焼酎「環」の収益の一部は「豊かさ基金」として積み立て、過疎が進む上陽町の山あいの集落の安心・安定の暮らしを支援する資金として活用していくこととしており、1本当たり（4合瓶）の値段は、通常の焼酎より少々高くなっております。（1本1,600円）

値段が高いため、一般の居酒屋や小売店には販売しにくく、趣旨を理解していただいた人やお店で購入していただいている次第です。

昨年度は、なんとか約1,200本を販売するこ



「環」パンフレット

とができましたが、販売量をどう伸ばすかが大きな課題となっております。また、数年間、貯蔵し寝かした原酒の「環」があるので、これをどう販売するかを思案しているところです。

11月には芋掘り大会も行います。芋焼酎「環」にご興味のある方、また、芋掘り大会に参加されたい方は、是非、よかネットまでご連絡ください。（山田 龍雄）

編集後記

※期日までに何とか編集作業を終えました。いつも時間との勝負です。まだ梅雨です。突然の大雨や台風、また雨が続きの際は、地盤の緩みに注意が必要です。（裕）
※表紙のデータを15年ぶり作成しました。この間には、こういう仕事がありませんのだと改めて感じた次第です。（ベ）

よかネット No. 115 2014. 7

（編集・発行）

（株）よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号
福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

<http://www.yokanet.com>

mail:info@yokanet.com

（ネットワーク会社）

（株）地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6942-5732

東京事務所 TEL 042-501-2531

名古屋事務所 TEL 052-202-1411

（株）地域計画・名古屋